

「朝鮮王朝の絵画と日本 ― 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」展

岡山県立美術館では、来年度6月5日(金)より7月12日(日)まで朝鮮時代の絵画と日本画壇との関わりをテーマにした特別展「朝鮮王朝の絵画と日本」を予定しています。これは栃木県立美術館を皮切りに静岡県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館の全国4箇所を巡回するもので、栃木ではすでに先日11月2日より開幕しました。この展覧会は、第一部で長期にわたる朝鮮王朝の絵画の展開を通観し、第二部で朝鮮と日本、双方の絵画からそこに表現された美の交流をうかがってみようとするものです。

朝鮮時代は太祖李成桂(在位1392～1398)の創建以来、1910年に日本に併合されるまで518年も続いた東アジアでも稀に見る長命な王朝です。その間に中国では明・清という二つの王朝があり、日本では室町時代から江戸時代、さらに明治時代へと時代が移り変わりました。長きにわたる朝鮮時代画壇の展開は、ざっと前期、中期、後・末期(1700年頃～1850年頃、1850年頃～日韓併合1910年)の3期もしくは4期に分けられます。

朝鮮時代前期(1392年創建～1550年頃)は、宋・元時代の中国絵画の画風を範とし、なかでも北宋時代の山水画家、李成・郭熙によって生み出された李郭派の画風が重視されました。16世紀・中宗朝(1506～1544)以降には当時北京で流行していた浙派の画風の影響も顕著になっていきます。

中期(1550年頃～1700年頃)は東アジア情勢が激動した時代で、日本との間では壬辰倭乱(文祿の役)・丁酉再乱(慶長の役)、中国・清(後金)との間では丁卯胡乱、丙子胡乱と続き、朝鮮王朝は大きな打撃を受けました。その後も国内は党争に明け暮れ不安定な時代が続きました。この時期は中・朝間の関係を反映して「崇明排清」の意識が強く、明時代・浙派の画風の影響が顕著でした。同時に閉鎖的な外交姿勢の中で、後に大きく展開していく韓国的な特徴が明確となってきます。朝鮮時代を通じて基本的には崇儒廃仏の政策がとられましたが、明宗(1545～1567)の時代には、母の文定王后(1501～1565)の厚い仏教信仰もあり、宮廷の発願で少なからず洗練された仏教絵画が制作されました。また、民間においても来世安穩、亡魂供養の願いを込めた民衆的な仏画、ことに大画面のものが制作されています。

朝鮮時代後期には、中国・清との国交は正常化して南宗画風が主流となり、18世紀から19世紀にかけては真景図と風俗画が流行しました。又、中庶層を中心に形成された周巷文人が書画の収集・鑑識・批評の担い手として新たな勢力となり、同時に画壇へも進出し、

やがて画壇の中核を担うようになりました。

第一部では以上のような朝鮮絵画の展開を紹介していきます。

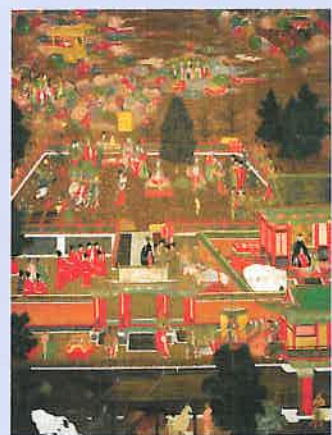
そして第二部では、朝鮮と日本の絵画交流に何がみえるか、日本の絵画がどんな影響を受けたのか、というテーマを提示します。朝鮮絵画の多様な展開を念頭に置きつつ、画風における類似性に注目して作品が選定されています。雪村周継、狩野探幽、俵屋宗達、池大雅、与謝蕪村、浦上玉堂、近年特に注目される伊藤若冲といった中近世の著名な画家たちの作品が朝鮮王朝の絵画と同一空間に並べられることで、これまでとは異なる印象を受けられるのではないのでしょうか。

この展覧会は、韓国国立中央博物館を初めとしてソウルからも20点余りを借用し、出品の総点数は326点に及びます。韓国所蔵と日本所蔵の朝鮮絵画をこれだけの規模で展示するという点では日本では初めての試みといえるでしょう。もっとも、重要文化財も含む絵画作品を中心とする巡回ということで、出品作品は各会場で入れ替えがあります。各館で1週間ずつ公開の作品や、2会場で2週間ずつ公開、あるいは1会場のみでしか公開されない作品もたくさんあります。そういった事情で、会場ごとの雰囲気も変わってくると思います。岡山会場では、高麗時代から16世紀末にかけての仏画・経典22点を含む250点余りの韓国・日本作品を公開の予定です。この機会にぜひ隣国の美の精華と日本画家たちの眼差しに触れていただければと思います。

【主任学芸員 中田利枝子】



李峯筆
《花下遊狗図》
16世紀中頃
日本民芸館蔵



《新羅羅生園》
15世紀後期 本岳寺蔵



「樺流れ稗喚籠」

展覧会後記

岡山県立美術館ボランティアによる企画『花・百華―画布に咲いた花々―』

展覧会準備のために費やした時間は、充実したものでした。

ボランティア企画による展覧会の開催が決まった1年半前、私たちボランティアは展覧会を開催するため「ボランティア企画実行委員会」(通称:チームボラ展)を立ち上げ、準備に取り掛かりました。すべての事柄が初めての体験で、“右往左往”に“立ち往生”といった状態でした。それでも前へと進めたのは、「やりたい」が「できる」と信じて疑わなかった未来指向のメンバーが集まったからだだと思います。そしてなにより、ボランティアスタッフの多くが、出来ることを出来る範囲で関わってくれたからでしょう。

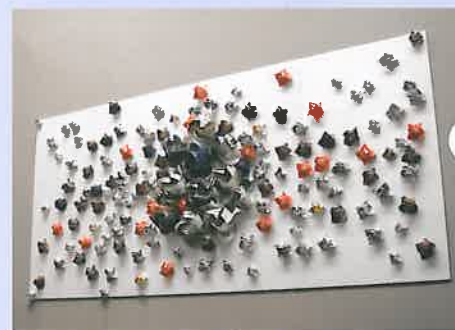
展覧会開催のための準備を振り返ってみると、「何をどのように見せるのか」という、展覧会テーマの決定が一番の難問で、何度も行きつ戻りつしながら半年という時間を費やしました。しかし、テーマが決まり方向性が定まると、なんとか物事が進み始めました。展覧会開催が近づいてくると、夢はあちこちにふくらみ始めました。『ボラ展通信』という展覧会準備の進捗状況をまとめた新聞を発行し、職員とボランティア全員に配布したり、キャプションにして作品へ添えるために描かれている花を植物園へ撮影に行ったり、館内の装飾やインスタレーションで使用するために、折り紙でバラを作る練習をして、数百個の折バラを完成させました。展覧会がオープンしてからは、ワークショップやお茶会、ギャラリートークといった展覧会関連行事をボランティアが主体となって実施し、お客様と触れ合えたことが、なによりも心に残るものとなりました。

日ごろ、ボランティアスタッフとして県立美術館の運営の一翼を担ってきましたが、このたびのボランティア展開催の準備に関わったことで、ひとつの展覧会をオープンさせるまでに、多くの困難を乗り越えなければならないということを変更して実感しました。最後になりましたが、展覧会開催のために協力していただいた方たちや、来館してくださったお客様に感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました。

【岡山県立美術館ボランティアスタッフ 大嶋万里子】



展示室風景



折バラを使ったインスタレーション

お知らせ

岡山県立美術館では、平成20年12月8日(月)から平成21年3月31日(火)まで、館内リニューアル工事のため休館いたします。休館中も当館収蔵作品の一部は、全国の美術館において展示され、皆様にご覧いただける機会がございます。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

当館収蔵作品が展示される展覧会

『岡山県立美術館所蔵 雪舟と水墨画』

会場: 千葉市美術館

会期: 平成20年12月20日(土)～平成21年1月25日(日)

展示作品: 《老子図》牧谿、《廬山図》玉淵、《山水図(傲玉淵)》雪舟等楊など66点

住所: 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

お問い合わせ: 043-221-2311 (千葉市美術館)

『アメリカの見た夢』

1920-30年代の絵画、写真、デザインと日本』

会場: 島根県立石見美術館

会期: 平成21年1月2日(金)～3月9日(月)

展示作品: 《カーテンを引く子供》など国吉康雄の作品5点

住所: 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15

お問い合わせ: 0856-31-1860 (島根県立石見美術館)

『福岡と雲谷派 城郭襖絵「梅に鶴図」の謎!』

会場: 福岡市美術館

会期: 平成21年1月6日(火)～2月8日(日)

展示作品: 《山水図屏風》雲谷等益

住所: 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

お問い合わせ: 092-714-6051 (福岡市美術館)

編集後記

美術館ニュース 83号をお届けします。本号でもお知らせしましたとおり、当館は平成20年12月8日より、およそ3ヶ月間休館いたします。来館者の皆さまに、館内でより快適な時間を過ごしていただけるよう、ユニバーサルデザインに配慮したりリニューアルを行います。休館する3ヶ月の間、我々職員もお休み...というわけではありません。来年度に開催する展覧会の準備や、作家・作品の調査研究、バックヤードや書庫の整理整頓まで、任事は山積みです。次号の美術館ニュースでは、リニューアルした当館についても詳しくご紹介する予定です。新しく生まれ変わった岡山県立美術館で皆さまにお会いできるのを職員一同楽しみにしています。 [S.T.]

美術館ニュース 第83号

発行: 2008年12月

発行者: 岡山県立美術館

〒700-0814 岡山市天神町8-48

TEL: 086-225-4800

URL: <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/index.html>

E-Mail: kenbi@pref.okayama.lg.jp